町工場技能者コンクール

あいち人財力強化プロジェクト
イメージキャラクター「アイチータ」

中小企業若手技能者競技大会

～若き技能者たちの魂の技を目撃せよ～

愛知県は2017年12月9日、10日の両日、名古屋市千種区の愛知総合工科高校で、中小企業の若手技能者が腕を競う「町工場技能者コンクール（中小企業若手技能者競技大会）」を開催した。“モノづくり王国・愛知”の未来を担う若者たちが、日ごろの業務で培った技能を発揮し、「旋盤」「電気工事」「電気溶接」の三つの職種で熱戦を繰り広げた。

「モノづくり・愛知」支える 若手技能者が実力競う

同コンクールは、技能五輪に参加しにくい愛知県内の中小企業の若手技能者を対象とする技能競技大会として、同県が主催している。若手技能者に自主的に技能向上を目指す努力目標を提供し、技能向上意欲の高揚を図るのが主な目的だ。

今回は同県内に事業所を有する中小企業に勤務する39歳以下の技能者を対象とし、競技は「旋盤」「電気工事」「電気溶接」の3職種で12月9日に実施した。

旋盤職種には10人が参加。汎用旋盤を用いてネジ、ローレット、テーパー、偏心、芯出しなどの加工を施しながら、制限の4時間30分をフルに使って課題に取り組み、作品を仕上げた。

その結果、優勝を果たしたのは、航空宇宙分野の部品加工をメーンとする小坂鉄工所（名古屋市南区）に勤める阿達貴之選手。阿達選手は16年に開催された前回の同コンクールの旋盤職種に出場したが、入賞できなかった。この1年間で腕を磨き、雪辱を果たした。

準優勝は航空機やロケット部品加工などを手がける名南機械製作所（同）の岩田春樹選手。創意工夫をこらし、初出場ながら優れた成績を残した。第3位はプレスを軸に切削・研削やレーザー加工、溶接、組み立てと幅広く金属加工を行うイハラ鋼業（愛知県蟹江町）の横内一樹選手。横内選手も前回大会に出場して苦汁をなめたが、今回は見事に入賞した。

競技終了後、競技主査を務めた澤武一芝浦工業大学デザイン工学部准教授は「汎用旋盤はモノづくりの基本。本大会の経験は今後の業務に生きる。がんばってほしい」とエールを送った。

旋盤職種の完成作品を競技委員に提出する選手

それぞれの選手が日頃の業務の成果発揮

同コンクールで初めての実施となった電気工事には、13人の選手が出場した。「電気配線」「ケーブルおよび管の取り扱い」「美観」を中心に技能を競った。

優勝に輝いたのは、暁電気工業（同岡崎市）の渡邉一輝選手。時間を見つけては練習に取り組んだ努力が報われた。準優勝は高浜電工（同高浜市）の増田孝志選手。第3位は同じく高浜電工の弓矢隆雄選手。両選手は事前に行われた講習会でメモを取ったり動画を撮影したり、ひたむきな姿勢が目立っていた。

競技主査の川口敦史高浜高等技術専門校電気工事科専門員は「非常に高レベルなコンクールだった。特に未完成作品がなかったことと、電気配線や極性の誤りがなかったことは、選手が日ごろから電気工事士としての責務を果たしていることの証明となった」と評した。

愛知県溶接協会と共催した電気溶接職種には28人が参加した。その中で見事に優勝の栄冠をつかんだのは、フォークリフトの部品加工などを手がける三周全工業（同西尾市）の西尾直人選手。普段は機械加工の業務に従事しているが、持ち前のセンスと練習の成果を発揮した。

準優勝に昇降機部品製造などの矢田工業所（名古屋市東区）の長嶺ヨシヒデ選手、第3位に三周全工業の高須涼矢選手と続いた。

電気溶接職種の課題に真剣な眼差しで取り組む選手

技能五輪メダリストの模範演技に熱い視線

12月10日には技能五輪メダリストによる旋盤職種と電気工事職種のデモンストレーションが開催された。

旋盤職種のデモンストレーターを務めたのは、第48回と第49回の技能五輪全国大会の旋盤職種で銅賞を獲得している、アイシン・エィ・ダブリュの菅沼貴弘氏。同コンクールの旋盤職種で出題された課題のポイントについて、解説を交えながら加工実演した。

同コンクールの旋盤職種の出場選手はもちろん、地域住民や会場の愛知総合工科高校の生徒らも見学。卓越した技能に固唾（かたず）をのんだ。同校のある生徒は菅沼氏の立ち振る舞いや工具の配置などをメモや写真、動画で熱心に記録。「自分もいずれ技能五輪に出場し、菅沼さんのように活躍したい」と目を輝かせていた。

電気工事職種のデモンストレーターは、きんでんの川下政彦氏。川下氏は技能五輪全国大会の電気工事職種で第44回の敢闘賞、第45回の銀賞、第46回の金賞を獲得。第40回の技能五輪国際大会では金メダルに輝いている。

川下氏は同コンクールで標準時間3時間半だった課題をわずか1時間で仕上げた。見学した同コンクールの電気工事職種のある選手は「さすが世界チャンピオンの技はレベルが違う。とても良い刺激になった」と感心しきりだった。

旋盤と電気工事の技能五輪メダリストによる模範演技が披露され、多くの観客が妙技を体感した

旋盤
電気溶接
電気工事
日頃の業務と講習会の成果を発揮しようと、それぞれの競技に臨む選手たち

◀各職種入賞者一覧

	旋盤職種		電気工事職種		電気溶接職種	
	ふりがな 氏名	所属	ふりがな 氏名	所属	ふりがな 氏名	所属
優勝	あだち　たかゆき 阿達　貴之	株式会社小坂鉄工所	わたなべ　かずき 渡邉　一輝	暁電気工業	にしお　なおと 西尾　直人	三周全工業株式会社
準優勝	いわた　はるき 岩田　春樹	有限会社名南機械製作所	ますだ　たかし 増田　孝志	高浜電工株式会社	ながみね　よしひで 長嶺　ヨシヒデ	株式会社矢田工業所
第３位	よこうち　かずき 横内　一樹	イハラ鋼業株式会社	ゆみや　たかお 弓矢　隆雄	高浜電工株式会社	たかす　りょうや 高須　涼矢	三周全工業株式会社

大村愛知県知事が出場選手にエール送る

同日16時からは表彰式が行われた。冒頭、大村秀章同県知事が「愛知県は圧倒的にモノづくりが強い地域。若手の皆さんの力が欠かせない」とあいさつ。その後、各職種の入賞者が発表された。名前が読み上げられるたびに喜びの声がわき起こり、選手らは達成感にあふれた笑顔を浮かべた。

各職種の優勝者には「知事賞」として大村知事から表彰状とメダル、副賞が贈られ、旋盤職種と電気工事職種の準優勝と第3位の選手には「日刊工業新聞社名古屋支社長賞」として、四竈廣幸日刊工業新聞社取締役名古屋支社長から表彰状とメダル、副賞が渡された。電気溶接職種の準優勝の選手には愛知県職業能力開発協会の久保田勇男専務理事から、第3位の選手には愛知県溶接協会の加藤喜久専務理事から表彰状とメダル、副賞が贈られた。

こうして、若き技能者たちの熱き戦いに幕が下りた。

各職種の優勝者には大村愛知県知事より知事賞が直接手渡された

旋職職種・優勝者の声

同僚と意見出し合い〝いいとこ取り〟のトレーニング実践

旋盤職種
優勝

小坂鉄工所
阿達　貴之さん

前回（2016年）の町工場技能者コンクールに出場したときは、多忙だったこともあり、練習が満足にできず、悔しい結果となりました。「必ずリベンジを」という強い決意で臨みました。

仕事が終わってからなど、今回はうまく時間をつくれたため、練習に費やしました。1人だけでなく、一緒に出場した会社同僚の遠藤芳実君と2人で取り組むこともありました。公表された課題図面を見て、どんな工程で進めるのが良いのかなど、2人で意見を出し合い〝いいとこ取り〟をしながらトレーニングを積みました。

本番が終わったときは「無理かも」と思いました。なぜなら、標準時間をオーバーしていたからです。「せめて入賞だけでも」と願っていたところ、優勝を告げられて、喜びよりも「まじっすか」と驚きが先にきました。

私は「ものづくり汎用技能班」に所属し、日ごろから汎用旋盤で部品加工を手がけていますが、リーダーを務め、新人の教育にもあたっています。技術は繰り返せば何とか身につきますが、人材育成は簡単にはできません。「モノづくりは人づくり」と言われるように、技術力はもちろん、新人が人としても立派になれるよう指導に努めていきます。

電気工事職種・優勝者の声

普段から誰が見ても「きれいな仕上がり」を心がけている

電気工事
職種
優勝

暁電気工業
渡邉　一輝さん

社長から紹介され、町工場技能者コンクールを知りました。工業高校時代も含めて、いままでにこうした技能大会に参加したことがなく、いまの自分の実力はどれほどの水準にあるのかということを知りたかったため、出場することにしました。電気配線に従事していますが、これまでに培った経験も十分に生かせると思いました。

出場を決めてから本番までに期間があまりありませんでしたが、空いている時間を見つけて、すべて練習に注ぎました。

本番近くには、仕事が終わってから2時間程度の練習を毎日続けました。休みの日にも職場を借り、トレーニングを重ね、徐々に自信も付いていきました。

競技が終わったときはかなりの手応えを感じており、自信がありました。優勝を知ったとき、もちろんうれしさはありましたが、驚きはなく、業務も含めて今まで取り組んできたことが評価されたようで、報われたという思いが強かったです。

私は普段から誰が見ても「きれいな仕上がりだ」と言われる仕事を心がけています。今後はさらに腕を磨いていきます。いまは一作業者に過ぎませんが、いずれは後輩の指導ができ、人を動かせるような技能者になりたいと思います。

電気溶接職種・優勝者の声

出場と練習の機会を提供してくれた会社に感謝

電気溶接
職種
優勝

三周全工業
西尾　直人さん

実は今回のコンクールには、都合で出られなくなった同僚の代わりに出場しました。私は入社からこれまで主に機械加工を担当しており、溶接についてはサポート程度しか関わっておらず、ほぼ初心者でしたが、会社からのすすめがあり、「試してみよう」と参加を決めました。

会社には「溶接道場」という施設があり、ここで溶接の基礎練習を徹底的に繰り返しました。豊田自動織機から来られ、技能五輪の選手も育ててこられた高須哲夫先生にも指導をしていただきました。

約2カ月間、練習を続け、溶接の資格も取得しました。コンクールには溶接が主担当の同僚（第3位の高須涼矢選手）も参加していたため、彼に胸を借りるつもりで、プレッシャーは感じずにのびのびと取り組めました。

優勝が決まったとき、喜びと安心感がありました。過去2回、このコンクールで会社から優勝者が出ていますが、最近は優勝者がなく、「今回は是が非でも」と心に秘めていましたから。出場と練習の機会を与えてくれた会社には大変感謝しています。

昨年には技能検定でフライス盤の2級も取得しました。多能工化を目指し、今後は機械加工と溶接の両方を極めたいと思います。